

## 谷津田保全活動への抱負

新年あけましておめでとうございます。今年も谷津田の活動へのご支援をよろしくお祈りします。

下大和田や小山の谷津田で活動している皆さんに、2013年の抱負を語っていただきました。

### ★下大和田

・下大和田で観察した昆虫が600種を超えたのを機会に写真ファイルと共に分類・整理する作業を始めます。まだ種名が判明していないものが多数あり同定作業を並行して行います。取りあえず、昆虫については本年中に完成させ、追って他の動物、植物も収録したいと思っています（網代春男）。

・今年の抱負と言うほどでもないですけど、31文字に込めて：

\*年々に 田作業きつく なりゆけど 草には負けじと 稲に愛情を  
\*田づくりも マンネリ化して 草に負け 今年こそはと 意気込み  
だけは  
(石橋紘吉)

・今年の干支は巳なので、ヘビに注目して、何種類のヘビを観察できるか挑戦したいと思います。また、ヘビを通して谷津田の環境を考えることができると思います（小田信治）。

・ハーベスタが今年も無事に動きますように（大谷祥）。

・谷津田を守るためにできることは何でも・・・やれることから一つずつ取り組んでいきたいです（小西由希子）。

・健康に留意し、時間の許す限りお米づくり作業に参加して、12月の収穫祭を楽しく迎えたい（渋谷雄二）。

・谷津の空撮のめどがたつたので、皆さんにお見せできるような映像を撮れるようになりたい（高山邦明）。

・下大和田で実施している高校生物研究部の環境と生物調査は、3年目に入りました。ここでの活動が彼らの財産になるように、いろいろな経験をさせてあげたいです（田中正彦）。

・4歳1歳の娘たちと一緒に元気いっぱいYPPを楽しみたいです（中村真紀）。

・谷津田で自然と親しみ多くのことを学びたい。知る楽しみを満喫したい。谷津田に集う多くの方々楽しい時を過ごしたい（平沼勝男）。

・今年度も里山活動を継続しながら、何か新しい企画を考えたいものですね（お米でお酒？せんべい？）  
(福満美代子)。

・できるだけ活動に参加して、田の草取りや森の手入れをしたいと思います（南川忠男）。

・吉田ファミリーの抱負

\*下の子達も農作業させたいです。康弘（父） \*遊んでばかりでなく、稲刈り頑張る！ 祐（小学校2年）

\*草取り頑張る！ 紀恵（母） \*収穫祭で今年の倍はお餅をたべる 颯・鈴（幼稚園年中）



自然物を使ったヘビのクラフト（渋谷雄二さんの作品）

### ★小山

・稲富ファミリーの抱負

\*無我の境地は100年早かった！風柳田んぼの開墾、一步でも進めたい。そして、秋にはわらで恐竜を作成したい。直彦（父）

\*今年も、田んぼに来てくれる子ども達の、きらきら輝く笑顔に沢山会える様に頑張ります。理枝（母）

\*谷津田に来る珍しい生き物を見つける。晴彦（小学生）

\*カエルさんを探してたくさん遊ぶ。真理（幼稚園）

・無理なく、楽しく、活動に参加していきたいです（今川友子）。

・谷津田で会う人たち（地元の方。スタッフ。あすみ小、大椎小の先生方、子どもたち、保護者の方々）に誠意をもって接し、みんなで楽しく作業したいです（江澤芳恵）。

・昨年のは年と午年の五年生の皆さんは恥ずかしがりやさんが多かったようです。今年の午年未年さん達はどうかな？（大谷祥）

・今年も地元の皆さんとたくさんお話ししながら、楽しく稲作や自然観察をしたいです（齊藤 薫）。

・今年こそは学校田んぼの活動にもっと参加して、子どもたちと田んぼを楽しみたいです（高山邦明）。

・昨年も学校田んぼやYPP田んぼの田づくりが無事に終わり、一昨年を上回る収穫量でした。作業してくださったみなさん、ありがとうございました。田んぼ作業を通して、昨年もたくさんのお会いがありました。先月号に寄稿してくださった大椎小の教頭先生もそのお一人。心暖まる文章を書いていただきました。田んぼ作業をしていると、地元の方が昔の谷津田の様子を話して下さったり、作業を手伝って下さるご父兄の方が原風景を思い出して話して下さったりします。そんなお話の中には、農作業の苦勞や昔ながらの知恵、地域の違いなど…たくさん学ぶことがあります。今年は伺ったお話を、できるだけ谷津田だよりで紹介したいと思います。もちろん、おしゃべりだけでなく、作業も頑張ります！みなさん、よろしくお祈りいたします!!（松下恵美子）

・田んぼの手入れを少しずつしていきたい（柳町健治）。

## YPPの活動に参加して

### 今川 友子（千葉市緑区）

私がYPPの活動に参加するようになって1年が過ぎました。けれども、私が千葉県に越してきたのは、もう15年も前のこととなります。その間、いろいろな場所へ出かけ、田畑の作業を経験してきました。素人のサークルが取り組む有機無農薬の稲作に始まり、合鴨除草の田んぼや、一面に紙マルチを敷き詰めたなかでの田植えというものもありました。やがて、奈良の川口由一さんが提唱する自然農を知り、3年前からは、君津市の谷津田に通って勉強を始めました。小山町でのYPPの活動を知ったのもこの頃です。

そもそも私が、こうした農の営みに興味を持つようになったきっかけは、千葉に来る前に一年間暮らした、長野県の山村での生活にあります。

夫の仕事の関係で、中東で4年間を過ごした私たちは、日本に帰国する際は緑豊かな土地で子供たちと暮らしたいと考え、思い切って親戚も知人もいない木曾御嶽山のふもとの村である開田村（現在の木曾町開田高原）に住むことに決めたのです。かつて木曾馬の産地だったこの村は、標高1,000Mから1,500Mに広がる高原地帯で、夏の気温が30度を超えることはないかわりに、冬の最低気温がマイナス20度まで下がるという土地です。私と三人の子供たちが暮らすことになったのは、谷あいにはわずかに開けた全8戸ほどの小さな集落でした。

帰国したのはちょうど冬で、村は一面の銀世界でした。乾いた砂漠の街から来た私たちには、それは全くの別世界でした。

そして春になり、雪が溶けて、見渡す限りの山・森・野原の命が、まるで眠りから醒めたかのように一斉に輝き出す様子は、めまいがするほど感動的でした。中東のストイックで厳しい自然と較べて、日本の山里の自然の、何と豊饒で猥雑で刺激的なこと！

子供たちがそれぞれ学校や保育園に出かけてしまうと、一人になった私は、毎日あてもなくふらふらと歩きまわり、まるで命の洪水のような、強烈な芽吹きと生命力の中にどっぷりと浸っていました。やがてそんな不審者の私を見かねたのか、大家さんが農作業の手伝いに誘ってくれるようになりました。大家さんの家では、数頭の繁殖雌牛と仔牛を飼っていて、畑で牧草ととうもろこしを、ビニールハウスで切り花用のユリを育て、そして田んぼでは、主に自給用のお米を作っていました。その大家さんに教わりながら、時には子供たちも一



御嶽山のふもとに広がる開田高原



オダかけ作業

緒に、様々な農作業のお手伝いをしました。春にはとうもろこしの種まきやユリの手入れ、夏休みには観光客を相手に、畑で採れたてのとうもろこしを直売。秋には刈り取った牧草のロールをトラックに積んで運んだり、飼料用とうもろこしを機械で砕いてサイロに積み込むという過酷な肉体労働も体験しました。面白かったのは、稲刈り後のオダ掛けの作業です。開田村のオダは、10段から12段位の背の高いものが多く、木でしっかりと作られ固定されていました。上の段は地上からでは手が届かないので、大家さんのおじいさんが上段に登り、下からおばあさんが次々と投げ上げる稲束を、受け取っては掛けていくのです。恐らくもう何十年も繰り返されてきたであろうその作業は、リズムカルで無駄がなく、ぴたりと見事に息の合ったものでした。

結果的に、私たちがこの村で過ごしたのはたったの一年で、経験することができた農作業もほんのわずかな部分だけでしたが、それでも、種を蒔き、苗を植え、世話をし収穫するという農業の基本的な流れの中に、農家の方々が昔から受け継いできた知恵と技術がたくさん詰まっているのだということが、よくわかりました。それと同時に、自然の中で、その季節に応じて芽を出し、根を張り葉を広げて育ち、やがて花を咲かせて実を結ぶ、植物の生命の力は何と巧みで不思議なのだろうと感心しました。私たち人間が、この生命の力を毎日いただいているということは、ごく当たり前ですが、とても大切なことだと思えます。その大切なこととまっすぐに向き合う仕事が農の営みなのだと思えました。

千葉に転居し、ささやかながら家庭菜園を始めて土に触れていると、野菜だけではなく、草や虫や、目に見えないたくさんの生き物たちが、その中で暮らしているということに気づかされます。特にこの一年間は、YPPの活動に参加することで、谷津田に棲む様々な生き物たちのことを、少し知ることができました。とても珍しい生き物も、そうでない生き物も、人気者も、嫌われ者も、稲も野菜も、雑草と呼ばれる草たちも、それぞれがつながり合いながら、精一杯生きて、死んでゆく。そうした自然の環の中で、人間もまた、決して例外ではないのだと強く感じることでできた一年でした。



# 里山たんけんレポート

## 第155回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2012年12月2日(日) くもり

今日は千葉大の学生さん、中国、米国、オーストラリア、フィンランドからの留学生の皆さんを迎え、いつもの千葉校生物部の皆さんと若い方々の参加が多く華やかな観察会となりました。虫たちはぐっと少なくなる季節で冬季の観察会はバードウォッチングが主体になります。23名と言う大勢でのバードウォッチングとなったためか鳥は姿をなかなか現してくれません。ブッシュの中を飛び交う姿はたくさんあるのですが双眼鏡を使い慣れない方には鳥の姿を捕らえることが難しい状態でした。イノコズチ、チジミザサのひつつきむしやノイバラの棘に悩ませられながら藪漕ぎをしたり、枯れたばかりの原野を歩くのはちょっとワイルドな道程ですが、ノイバラ、ツルウメモドキ、マユミ、サンショウなどの実が楽しませてくれました。今冬いちばんの冷え込みで日陰の田んぼはまだ氷が張っていました。そんな田んぼにイチヨウウキゴケがたくさん出ているところがありました。タネツケバナのロゼット状の新芽もたくさん出ていました。早いものは花をつけ始めています。摘んで味わってもらいました。タネツケバナの香り・味はどなたにも好評です。サンショウの実には顔をしかめている方もいらっしゃいました。虫は少なくなったとはいえ畔を歩くとコバネイナゴがいくつも飛び出します。ツチイナゴ、トゲヒシバツタ、モンキチョウなども出てきました。今日も参加の生きもの大好き少年は田んぼでヒメゲンゴロウを捕まえたり、ハラビロカマミリの卵のうを見つけて大喜びでした。参加者がカトリヤンマ死骸を拾いました。下大和田で初記録です。一巡して戻ってきたところノスリが2羽悠々と弧を描いて頭上を飛んでくれました。唯一はっきり姿が見られた鳥でした。

(参加者 大人8名、大学生8名、高校生6名、子ども1名； 報告：網代春男)

## 第141回 下大和田 YPP「収穫祭」

2012年12月16日(日) 晴れ

待ちに待った収穫祭の日が来ました。当初の予定では前日、16日の予定でしたが雨天のためこの日に延期となりました。この日は暖かく青空が広がり絶好の収穫祭日和となりました。

参加者協力のもと準備に取り掛かります。餅つきの準備は焚き木に火をつけお湯を沸かすところから始まります。炭に火をつけているのは焼き魚・イカそして焼き鳥グループです。他に豚汁を作る人、餡子やきな粉などお餅の準備する人たち。お釜で今年収穫されたコシヒカリも炊かれました。勢い付けに焚火をする人たちもいます。焚火の中にホイルで包んだサツマイモも入れられました。みんな楽しみながら作業を進めます。

最初に焼き魚・イカそして焼き鳥が出来上がりました。人が集まります。お釜で炊かれた新米に舌鼓を打ちます。豚汁もおいしくできました。臼の周りに人が集まります。いよいよお餅つきの開始です。自分たちで作ったお米のお餅つきは格別です。ヨイショヨイショの掛け声が響きます。この日は二升三臼の餅が用意されました。きな粉、餡子、納豆ネギ、大根おろし。どのお餅もおいしくできました。満腹になった後は谷津田運動会です。この日は子供達だけの落ち葉キャッチと谷津田クイズ、大人も参加のじゃんけん大会。どの競技も優勝者には素敵な品が用意されていました。またお米づくり講座の修了式も行われ3家族の方々の修了式が執り行われました。楽しい一日を過ごすことができました。

(参加者；大人40名、子供；25名、 報告；平沼勝男)



最後にみんなで記念撮影(撮影：田中正彦)

## 第88回 小山町 YPP「唐箕(とうみ)かけ」

2012年12月16日(日) 晴れ

前回、足踏み式の脱穀機を使って脱穀したモミにはわらや実っていないモミ(しいな)がたくさん混じっているので、唐箕(とうみ)を使って取り除きました。手で風車を回して風を起こしてゴミを飛ばす昔ながらの方法(“風選”)ですが、実の入ったモミだけが上手に吹き分けられるのは見事です。一見、単純な作りですが、唐箕には昔の人の知恵がたくさん注ぎ込まれて工夫されています。これではようやくモミすりだけを残すところまでたどり着きました。



泥上げをして水路がきれいになりました

並行して崩れた田んぼの畦の補修と土砂が貯まった水路の泥あげをしました。畦は来春、もう一度作業が必要です。水路は水が気持ちよく水が流れるようになりました。



唐箕を使ってゴミを飛ばす作業 (撮影：大谷祥)

(参加者：大人8名；報告：高山邦明)

## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

12月12日 小学校田んぼ北西側の畦が凍りつく。例年よりだいぶ早い。数日前(8日から9日にかけて)の強風のためか、おだ足が一本折れていた。畦にもぐら塚が増えてきた(金谷)。

### 下大和田

12月11日 ものすごい霜。田んぼ内の溝の氷は厚さ三センチほどに(金谷)。

12月18日 先週よりは幾分暖かく、田んぼの氷も薄め。泥の中にザリガニのこどもが結構いた。もうそろそろ冬眠?(金谷)

12月25日 カメラが動かなくなったほどの極寒の日。鍬についた泥も凍りつく。しかし大麦は元気(金谷)。

12月24日 ベニマシコの雌を見た。嘴が小さく雌は特に可愛い顔つきをしている。雄は鳥好きの人達の憧れの赤い鳥。日本では北海道で繁殖し、冬季は本州以南に移動する。下大和田では放置田の葦やセイタカアワダチソウ、柳が茂った中で草の実や木の冬芽を食べている(網代)。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。

・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任をお願いします。

## ▼第142回「どんど焼きと昔あそび」

年明け最初のイベントは恒例のどんど焼きと昔あそびです。新年への思いを語り合いながら楽しく過ごしましょう。

なお、当日の朝8時半から田んぼの畦の補修作業をします。都合がございましたらご協力をお願いします。

日時: 2013年1月13日(日) 10~14時、畦の補修は8:30~ \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。

また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、もしあれば、昔あそびの道具、どんど焼きで燃やしたいものなど。

参加費: ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

## ▼第157回 下大和田2月の谷津田観察会とごみ拾い

例年、この辺りには少ない冬鳥も今冬は渡って来ているようです。鳥を探しながら冬しか立ち入れない谷津下流部まで巡ります。ニホンアカガエルの産卵も始まっていれば卵塊が見られるでしょう。

日時: 2013年2月3日(日) 10~12時 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。

また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(下大和田YPPに同じ)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

## ▼第89回 小山町YPP「自然観察」

谷津で冬越しをする野鳥などを観察しながら、谷津田や斜面林周辺を散策します。

日時: 2013年1月14日(月・祝) 10:00~12:30、小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 みなさん、新年いかがお迎えですか? 元日に初日の出を見がてら小山の谷津を散策しました。新しい年の日差しが谷津を照らし始めると、鳥たちの声が一段とにぎやかになり、林やヤブから飛び立つ姿があちこちで見られました。今季は冬の野鳥がとても多い様子で、この日も2時間ほどの散策で20種類ほどの鳥が見られました。珍しい鳥も身近な谷津に来ているようですので、暖かい部屋から勇気を持って抜け出して、ぜひ、散策に出かけてみてください。今年も谷津田の活動のサポートをどうぞよろしくお願いいたします。(高山 邦明)